

モニタリング方法の検討について

北海道地方環境事務所

1. 概要

ウミガラス保護増殖事業では、飛来・繁殖状況や減少要因の把握を最大限に実施するために繁殖巣棚周辺でのカメラによるモニタリングを実施している。また、個体群は回復傾向にあることを受けて標識調査等による新たな知見の収集や個体数を増やすための捕食者対策の強化等を実施してきた。取組の成果により、巣棚内部での繁殖状況や捕食者等の減少要因の把握が進んだ一方で、実施場所は赤岩対崖の高さ 20m の窪みにあり、作業に際して登攀技術や機材への専門知識等を要することから、作業の安全性や実施体制の継続性には課題が生じている。

そのため、課題や繁殖状況を踏まえて見直しを行っていく必要があることから、飛来・繁殖状況を把握するために実施していた既存のモニタリングについては安全性・継続性・低コスト化等の観点から代替手法への移行を検討している。

令和 6 年度に赤岩繁殖地周辺のモニタリングを代替手法に移行していくこと及び移行に向けた実施事項の検討について合意を得たことを受けて、令和 7 年度には代替手法による実施事項の検討と代替モニタリングの精度検証を実施した。

2. 代替手法による実施事項

ウミガラス保護増殖事業ロードマップでは、1963 年（昭和 38 年）から継続的にカウントされている飛来数が過去からの推移の指標となることや、繁殖地で巣立った個体の大部分が再び同じ繁殖地に戻ることが知られていることから、つがい数や巣立ち成功率といった数値が目標値として定められている。そのため、事業の効果検証の指標として「飛来数」・「つがい数」・「巣立ちヒナ数」を継続的に把握していくことが必要である。代替手法では、それらの項目のモニタリングを実施することを基本として、繁殖阻害要因として想定される捕食被害や採餌環境に関するモニタリングを必要に応じて検討することとする。

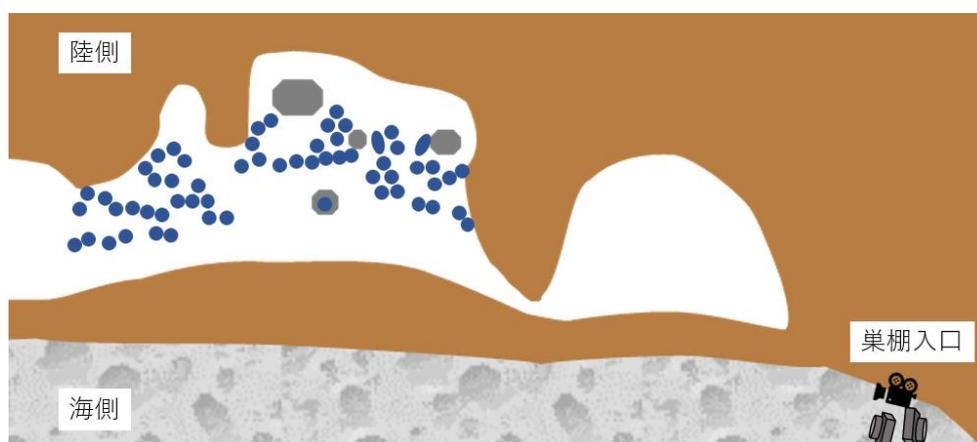


図 1 代替モニタリングによる機材設置位置

3. 代替手法への移行

令和 8 年度及び 9 年度の検討会において代替手法によるモニタリングの精度検証を行い、令和 10 年度に代替手法に移行することを想定する。移行にあたっては、天売島のウミガラス個体群の繁殖状況や動態調査や捕食者対策といった取組の進捗状況も併せて考慮していく必要があることから検証期間は令和 7 年度も含めて 3 年間とした。

モニタリング手法移行に係るスケジュール	
令和 7 年度	・代替手法の検討 ・代替手法の精度検証
令和 8 年度～令和 9 年度	・代替手法の精度検証
令和 10 年度	代替手法によるモニタリングに移行